

株式会社エージーピー

2024年度第3四半期決算補足説明資料

持続的な企業成長に向けて ~



エンジニアリング事業で
運航を支える

動力供給事業でCO2削減

空を想い、技術を極め、環境社会を創る

フードカートで
温かい食事を

専用格納庫で
ビジネスジェットをサポート

- 1 業績推移 Executive Summary
- 2 損益計算書
- 3 セグメント別売上高
- 4 貸借対照表, 分析指標
- 5 セグメント別損益
- 6 成長の実現

2024年度 第3四半期 決算報告

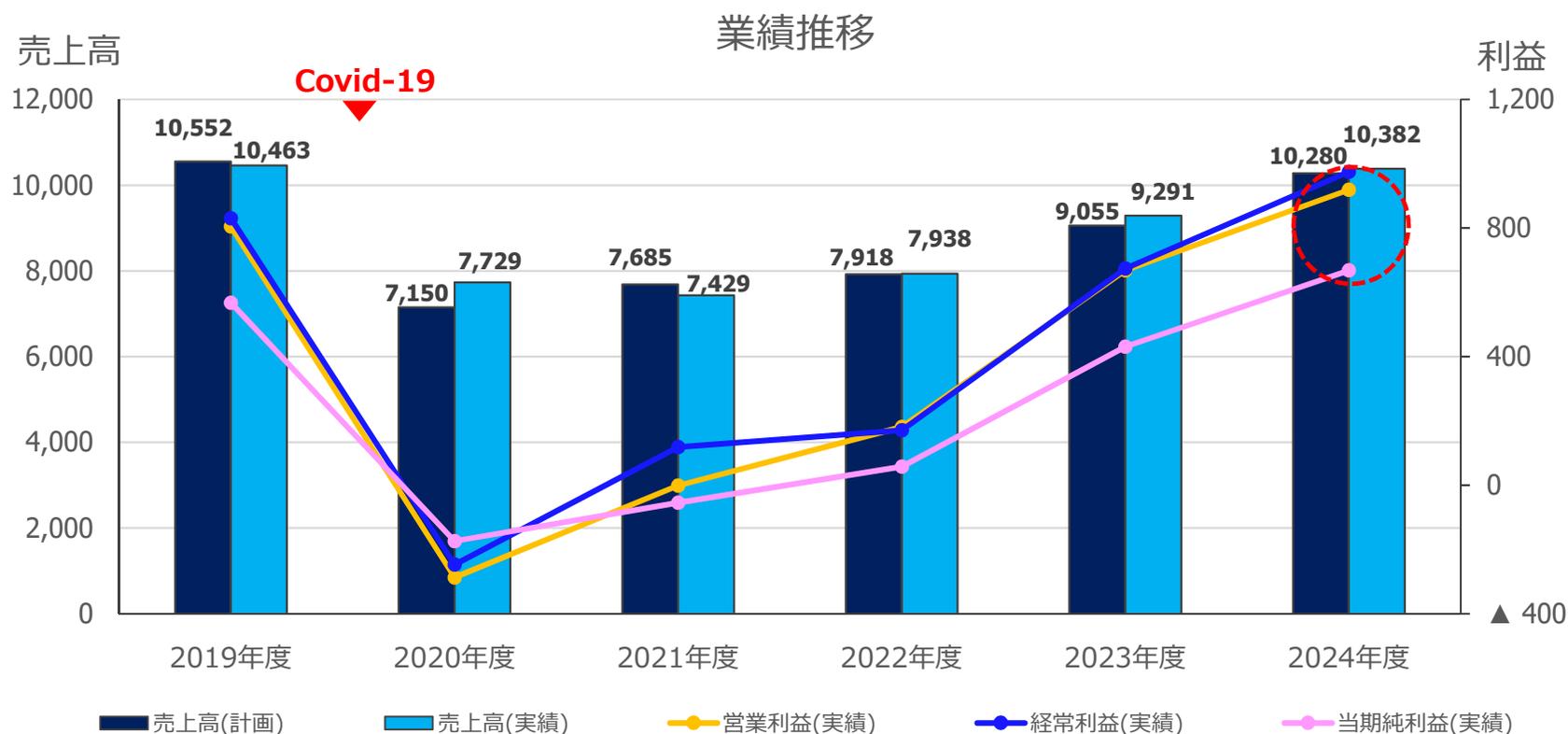
2024年度 第3四半期決算報告

業績推移 : Executive Summary



- 対前年、増収増益
- 航空需要増加に伴い、動力供給事業、エンジニアリング事業が堅調に推移
 - 動力供給事業は、運航便数の回復に伴う電力供給機会の増加に加え、2023年度より開始した原材料費高騰の変動に応じた動力料金への価格転嫁により利益圧迫の回避
 - エンジニアリング事業は、航空需要の増加に伴い、空港内業務における特殊機械設備の更新工事等が増加
- 通期業績予想は据え置き

(単位：百万円)



2024年度 第3四半期決算報告

損益計算書



- 売上高は、国際線の運航便数増加に伴い、動力供給事業は堅調に推移したことに加え、エンジニアリング事業の更新工事等が増加した結果、対前年10億91百万円(11.7%)増の103億82百万円となった
- 営業利益は、増収に伴い対前年2億51百万円(37.6%)増の9億19百万円、経常利益は過年度の誤請求の返金による営業外収益の増もあり、対前年3億円増益の9億75百万円、当期純利益は対前年2億36百万円(54.9%)増の6億68百万円となった

(単位：百万円)

	2023年度 実績	2024年度 実績	増減額	増減率
売上高	9,291	10,382	+1,091	+11.7%
売上原価	7,688	8,412	+723	+9.4%
セグメント利益 (GM%) *1	1,602 (17.2%)	1,970 (19.0%)	+367 +1.7pt	+23.0% —
全社費用*2	934	1,050	+116	+12.5%
営業利益 (OM%) *3	668 (7.2%)	919 (8.9%)	+251 +1.7pt	+37.6% —
経常利益	674	975	+300	+44.6%
当期純利益*4	431	668	+236	+54.9%

*1 GM% : Gross Profit Margin

*2 全社費用 : 主に報告セグメントに帰属していない一般管理費

*3 OM% : operating profit margin

*4 当期純利益 : 親会社株主に帰属する当期純利益

2024年度 第3四半期決算報告

セグメント別売上高



(単位：百万円)

<事業別売上>		2023年度	2024年度	増減額	増減率	特記事項
動力供給事業		4,163	4,386	+222	+5.3%	国際線における運航便数の増加に伴い、電力供給機会が増加
エンジニアリング事業	整備保守	1,960	2,323	+363	+18.5%	特殊機械設備の設置工事、更新工事が増加
	施設保守	1,343	1,390	+47	+3.5%	施設設備の更新工事が増加
	ビジネスジェット支援	192	297	+105	+54.8%	定期駐機数が堅調に推移していることに加え、臨時駐機が増加
	セキュリティ保守	453	498	+45	+10.0%	セキュリティ機器の設置工事が増加
	物流保守サービス	541	581	+39	+7.3%	物流倉庫関連設備における保守業務のプライシング改善
	小計	4,491	5,091	+600	+13.4%	
商品販売事業	フードシステム販売	289	297	+8	+2.8%	
	GSE* ¹ 等販売	344	606	+262	+76.2%	残雪除去器材、電動ベルトローダー、航空機用ブレーキクーリングカート等のGSE販売が増加
	電力販売	2	0	▲2	▲89.3%	2023年2月24日AGPでんきサービスは終了
	小計	635	904	+268	+42.2%	
合計		9,291	10,382	+1,091	+11.7%	

*1 GSE : Ground Support Equipmentの略称で、航空機地上支援機材の総称

2024年度 第3四半期決算報告

貸借対照表, 分析指標



- 設備更新投資は、空港再編の遅れにより当社設備の更新投資も遅延したが、減価償却は進んだことにより、固定資産は減少
- 有利子負債の返済等により負債は減少

<連結貸借対照表>

(単位：百万円)

	2023年度 期末	2024年度 3Q実績	増減額
流動資産	7,269	7,186	▲ 82
現預金	3,848	3,252	▲ 596
その他流動資産	3,420	3,934	+ 513
固定資産	6,526	6,355	▲ 171
資産合計	13,796	13,542	▲ 254

- 流動資産：現預金は固定資産取得(羽田空港等)、配当金の支払等により減
- 固定資産：減価償却が4億65百万円進み、繰延税金資産が39百万円減の一方、投資3億28百万円等により、1億71百万円の減

<分析指標>

	2023年度 期末	2024年度 3Q実績	増減
ROE (%) ^{*1}	7.4%	9.5%	+2.1pt
自己資本比率 (%)	67.8%	68.9%	+1.1pt
D/ELシオ(倍)	0.07倍	0.05倍	▲0.01倍
PBR(倍) ^{*2}	1.3倍	1.5倍	+0.2倍

- 純利益の増加により、ROE増加 (目標値：10%以上)
- 借入返済が進んだことにより、自己資本比率改善 (目標値：50%台)
- 株価値上がりによる影響で、PBR向上 (1.0倍以上を堅持)

*1 ROE(%)：(当期純利益 / 3×4) / (期首・当第3四半期末平均自己資本) 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

2 PBR(倍)：((当期純資産) / (発行株式数)) / (株価) PBRは期末時点の当期純資産、発行済み株式数および株価を用いて計算

*3 EBITDA：営業利益 + 減価償却費

(単位：百万円)

	2023年度 期末	2024年度 3Q実績	増減額
負債合計	4,442	4,214	▲ 227
有利子負債	617	488	▲ 129
その他負債	3,824	3,726	▲ 98
純資産	9,353	9,327	▲ 26
負債・自己資本合計	13,796	13,542	▲ 254

- 有利子負債：借入金返済により1億29百万円減
- その他負債：未払金(資産等)が3億95百万円減
- 純資産：配当6億73百万円減、当期純利益6億68百万円増

<連結キャッシュフロー計算書>

(単位：百万円)

	2023年度 3Q実績	2024年度 3Q実績	増減額
営業キャッシュフロー	984	942	▲ 42
投資キャッシュフロー	▲ 589	▲ 741	▲ 152
フリーキャッシュフロー	395	201	▲ 194
財務キャッシュフロー	▲ 677	▲ 803	▲ 125
EBITDA ^{*3}	1,119	1,385	+ 266

- 投資CF：前期取得固定資産の未払金減、資産の取得等により▲7億41百万円
- 財務CF：借入金の返済、配当金の支払い等により▲8億3百万円

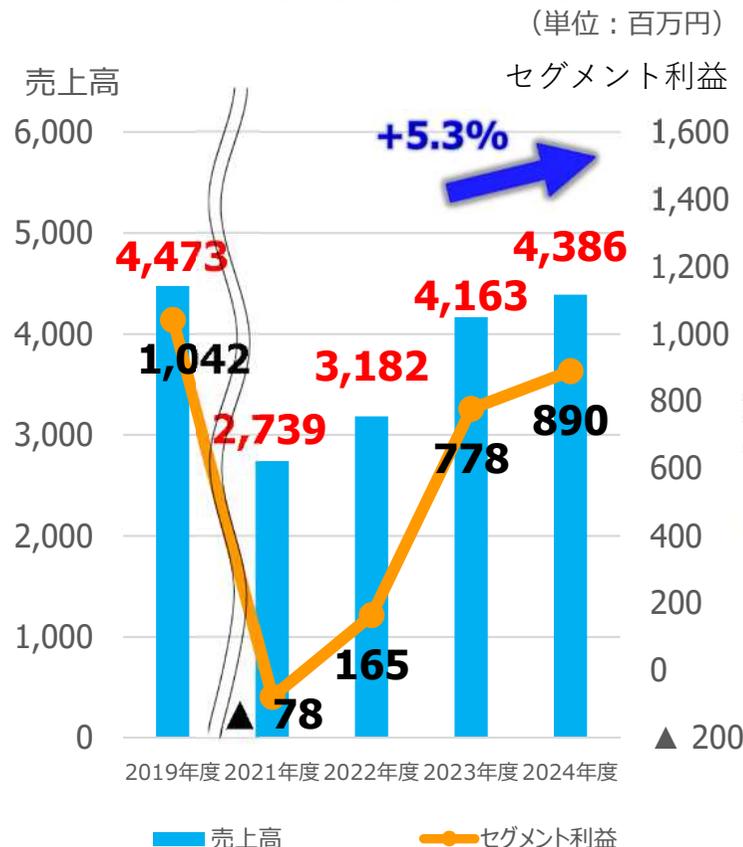
2024年度 第3四半期決算報告

セグメント別損益 ～ 動力供給事業 ～



- インバウンド需要により、東アジアや東南アジアからの国際線（中国便等）の運航便数の回復に伴い、電力供給機会が増加し、売上が伸長したことで2019年度に迫る結果となった
- セグメント利益は、便数増加に伴う設備稼働の向上と原材料費高騰の変動に応じた動力料金への価格転嫁により大幅に改善

＜各年度 第3四半期実績推移＞



※2024年度の主要取り組みおよび第2四半期の進捗状況については、P14以降に記載

2024年度 第3四半期実績：

- **売上高は前期比+5.3%**
- **セグメント利益は前期比+14.4%**



事業の特徴：

- 航空機用動力として電力・冷暖房気・圧搾空気を供給
- 固定式と移動式のGPU（地上動力設備）にて供給
- GPUは、APU（航空機補助動力装置）に比較し、CO2排出量は1/10以下

2024年度 第3四半期決算報告

増収分析 ～ 動力供給事業 ～



- 航空需要増加に伴い、国際線における電力供給機会が増加
- 中国および韓国系のエアラインの売上高構成比は低いが、**対前年比で1億38百万円増収**
- 対前年売上高2億22百万円増収の構成比として、**中国および韓国系のエアラインが全体の62%、その他の外国系エアラインも含めると、95%**
- 電力供給機会の増加の波を追い風に、環境負荷を大きく低減できる当社のGPU（地上動力設備）を使用していただき、空港の脱炭素化を推進する

<「3Q累計売上高」/「対前年 売上高増収/構成比/成長率」>

エアライン	2023年度	2024年度	対前年売上		
	3Q累計	3Q累計	増収	増収	成長率
	売上高	売上高		構成比	
中国・韓国系 エアライン	310	448	138	62%	144%
その他の外国系エア ライン	935	1,009	73	33%	107%
国内系 エアライン	2,918	2,928	10	4%	100%
合計	4,163	4,386	222	-	105%

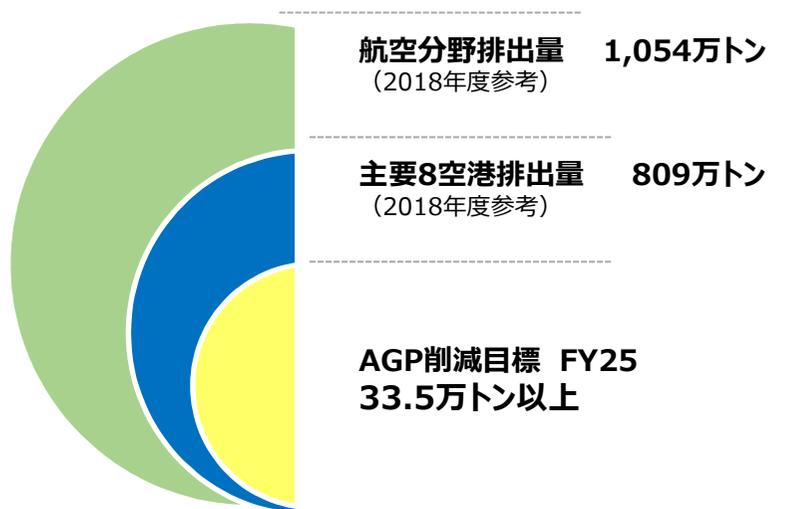
2024年度 第3四半期決算報告

ナショナルアジェンダ「空港における脱炭素化の実現」に向けて

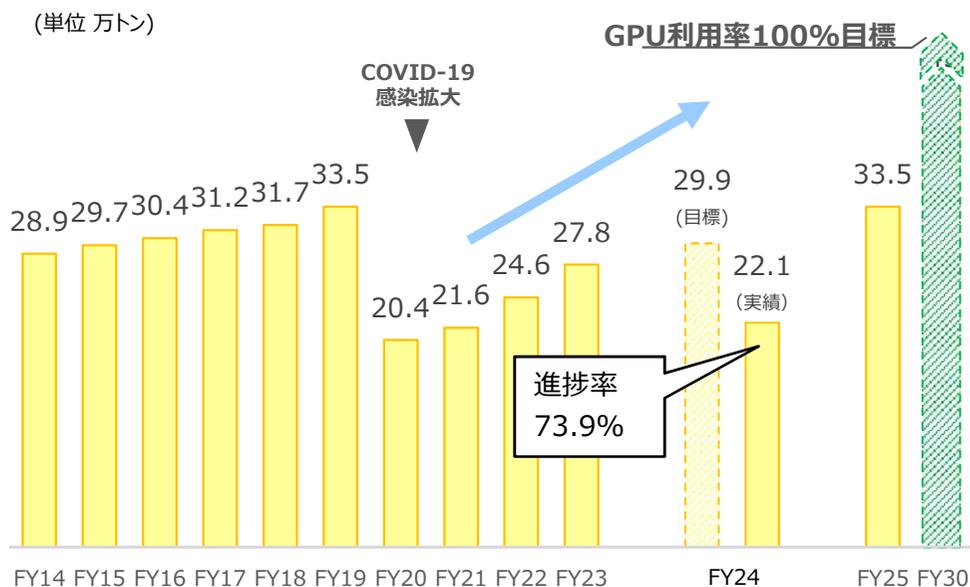


- 当社は、空港における環境貢献のリーディングカンパニーとして、「空港における脱炭素化の実現」に向けて、主要空港で駐機中の航空機がジェット燃料を使用せずに済むよう、当社の自社設備であるGPU（地上動力設備）を用いて、航空機へ必要な電気・空調等のサービスを提供しています
- 2030年度末までにGPU利用率100%を目標に掲げており、航空会社の皆さまへ当社設備の利用を促進しており、この取り組みにより、環境貢献と利益創出を両立させ、企業価値の向上を目指している会社です
- 本第3四半期は、残念ながらGPU利用率は55%にとどまっており、低い結果となっています

■ 航空分野CO2排出量に対するAGP削減目標



CO2排出削減量推移及び目標



対前年同月比1.3万トン(+6.3%)削減量の増加

2024年度 第3四半期決算報告

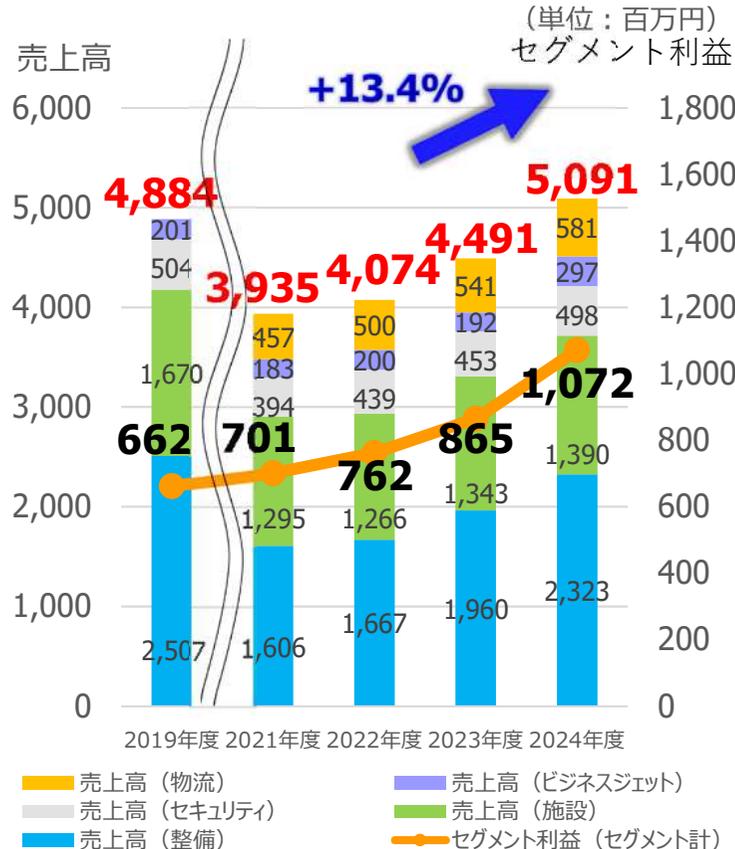
セグメント別損益 ～ エンジニアリング事業 ～



- 整備保守および施設保守は、更新工事等のフロービジネスが増加したことに加え、ビジネスジェット支援においては、定期駐機数が堅調に推移し、臨時駐機も増加。また、物流倉庫関連設備における保守業務のプライシング改善により、2019年度を上回る売上高を達成
- セグメント利益は、停滞していた更新工事等の獲得に加え、プライシング改善による増収により、2019年度を上回る利益の確保を達成

<各年度 第3四半期実績推移>

※2024年度の主要取り組みおよび第2四半期の進捗状況については、P14以降に記載



2024年度 第3四半期実績：

- **売上高は前期比+13.4%**
- **セグメント利益は前期比+24.0%**



事業の特徴：整備保守について

- 航空機の定時運航に寄与する、旅客手荷物搬送設備、旅客搭乗橋設備などのメンテナンス
- 空港内で培ってきた技術やノウハウを活かし、空港外の物流センター等メンテナンス事業を拡大

セグメント「エンジニアリング事業」：
「整備保守」、「施設保守」、「ビジネスジェット支援」、「セキュリティ保守」、「物流保守サービス」

2024年度 第3四半期決算報告

セグメント別損益 ～ 商品販売事業 ～



- コロナの影響による調達控え傾向が弱まり、残雪除去器材、電動ベルトローダー、航空機用ブレーキクーリングカート等のGSE販売が増加
- フードシステム販売は、EHカート販売増加
- セグメント利益は、大型機材を中心としたGSE販売の増加に伴い、黒字となった

＜各年度 第3四半期実績推移＞

(単位：百万円)



※2024年度の主要取り組みおよび第2四半期の進捗状況については、P14以降に記載

2024年度 第3四半期実績：

- 売上高は前期比+42.2%
- セグメント利益は黒字となった



Mallacren社製のPBL(Passenger Boarding Lift)

パッセンジャーボーディングラーフ (PBR)

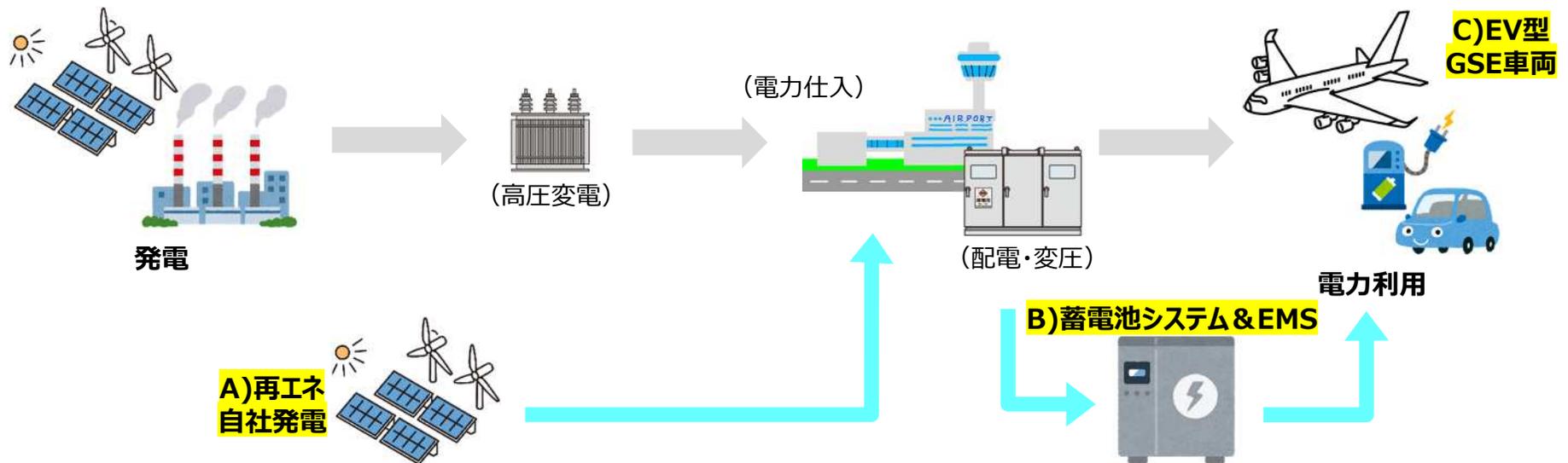
事業の特徴：

- 航空機用フードカートノウハウを生かしたフードカート等製造販売、GSE（航空機地上支援機材）販売

セグメント「商品販売事業」：「フードシステム販売」、「GSE等販売」、「電力販売」

成長の実現 新たな環境事業の創出

電力の仕入れから利用までの流れ



A) 太陽光発電システム等の保有による
自社グリーン発電の確保

B) 蓄電池システム、EMS等の活用による
電力利用の最適化

C) GSEのEV化に向けた充電ステーション
設置とGSE共有化

A) 当社の利用する電力のグリーン化の検討を開始

B) 今年度末を目標にEMSのPOC (Proof of Concept) の開発 大学と共同研究開発

C) 各空港運営管理会社と協議・検討中

当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備保守と施設保守、ビジネスジェット支援、セキュリティ保守、物流保守サービスをまとめてエンジニアリング事業、フードシステム販売、GSE等販売、電力販売をまとめて商品販売事業として報告しています。(*1)

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画部
電話：03-3747-1638
FAX：03-3747-0707
URL：<https://www.agpgroup.co.jp/>

*1 2022年度よりセグメント名称を変更しております。